

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成28年10月13日 (2016.10.13)

【公表番号】特表2015-522359(P2015-522359A)
 【公表日】平成27年8月6日 (2015.8.6)
 【年通号数】公開・登録公報2015-050
 【出願番号】特願2015-521798(P2015-521798)
 【国際特許分類】

A 6 1 B 17/72 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/58 3 1 5

【手続補正書】

【提出日】平成28年8月25日 (2016.8.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

流動性材料を用いて髄内 (I M) 釘を被覆する方法であって、
 チューブ状部材内へ、当該チューブ状部材の挿入端から当該チューブ状部材の対向端に向かって、前記 I M 釘を前進させる工程と、
 前記チューブ状部材上の第 1 位置において側壁を貫通して規定されている第 1 入口を介して、流動性材料を前進させる工程と、
 前記流動性材料の硬化後に、当該硬化された流動性材料をその上に有する前記 I M 釘から、前記チューブ状部材を取り除く工程と、
 を備え、

前記 I M 釘を前進させる工程は、前記チューブ状部材の前記側壁の内側円筒表面上に形成されて長手方向に延びている少なくとも 2 つの突出部に沿って、前記 I M 釘を摺動させて移す工程を有する

ことを特徴とする方法。

【請求項 2】

前記 I M 釘を前進させる工程は、当該 I M 釘の先端が前記チューブ状部材の前記対向端における凹表面に係合するまで、当該 I M 釘を当該チューブ状部材内へと前進させる、という工程を有している

ことを特徴とする請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記チューブ状部材上において前記第 1 入口に近接して形成されたボスに、流動性材料の供給装置を接続する工程

を更に備えたことを特徴とする請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】

前記接続する工程は、前記流動性材料の供給装置を前記チューブ状部材に、ネジ式に接続する工程、ルアーロック式に接続する工程、及び、ノズル式に接続する工程、のうちの 1 つを含んでいる

ことを特徴とする請求項 3 に記載の方法。

【請求項 5】

前記チューブ状部材上の前記第 1 位置とは異なる第 2 位置において前記側壁を貫通して

規定されている第 2 入口を介して、流動性材料を前進させる工程
を更に備えたことを特徴とする請求項 1 に記載の方法。

【請求項 6】

前記チューブ状部材の内部を前進する前記流動性材料を監視する工程と、
実質的に前記第 2 入口に向かって前進している前記流動性材料に基づいて、前記第 1 入口を介しての当該流動性材料の当該前進を停止させる工程と、
を更に備えたことを特徴とする請求項 5 に記載の方法。

【請求項 7】

前記チューブ状部材を除去する工程は、当該チューブ状部材を切断して被覆された前記 I M 釘から取り除く工程を、含んでいる
ことを特徴とする請求項 1 に記載の方法。

【請求項 8】

前記チューブ状部材を除去する工程は、当該チューブ状部材に沿ってスリットを形成させる当該チューブ状部材上に配置された引張部材を引っ張る工程、を含んでいる
ことを特徴とする請求項 1 に記載の方法。

【請求項 9】

前記チューブ状部材内に前記 I M 釘を前進させる工程に先立ち、当該 I M 釘の一端部上にシースを配置する工程
を更に備えたことを特徴とする請求項 1 に記載の方法。

【請求項 10】

流動性材料を用いて髓内（I M）釘を被覆する方法であって、
チューブ状部材内へ、当該チューブ状部材の挿入端から当該チューブ状部材の対向端に向かつて、前記 I M 釘の遠位端が前記チューブ状部材の前記対向端における凹表面に係合するまで前記 I M 釘を前進させる工程と、
前記チューブ状部材上の第 1 位置において側壁を貫通して規定されている第 1 入口を介して、流動性材料を前進させる工程と、
前記流動性材料の硬化後に、当該硬化された流動性材料をその上に有する前記 I M 釘から、前記チューブ状部材を取り除く工程と、
を備えた
ことを特徴とする方法。

【請求項 11】

前記チューブ状部材内に前記 I M 釘を前進させる工程に先立ち、当該 I M 釘の一端部上にシースを配置する工程
を更に備えたことを特徴とする請求項 10 に記載の方法。

【請求項 12】

流動性材料を用いて髓内（I M）釘を被覆する方法であって、
前記 I M 釘の一端上にシースを配置する工程と、
チューブ状部材内へ、当該チューブ状部材の挿入端から当該チューブ状部材の対向端に向かつて、前記 I M 釘を前進させる工程と、
前記チューブ状部材上の第 1 位置において側壁を貫通して規定されている第 1 入口を介して、流動性材料を前進させる工程と、
前記流動性材料の硬化後に、当該硬化された流動性材料をその上に有する前記 I M 釘から、前記チューブ状部材を取り除く工程と、
を備えた
ことを特徴とする方法。